

飲料かすから新素材をつくる 低温プラズマ式乾燥施設竣工

グレンカル・シナリー(株)

青森県のJAやゼネコン、物流資材関連会社などが出資し、昨年7月にジョイントベンチャーとして設立されたグレンカル・シナリー(株)は、飲料の受託充填事業を手掛ける(株)日本キャンパック利根川工場バイプロ棟(群馬県明和町)に、お茶殻などを再生原料化する低温プラズマ式乾燥機「レドックスマスター」を設置、5月19日に竣工式と運転開始式が行われた。同工場では従来廃棄されていた食品残さを、バイオマス新素材などに有効活用するプロジェクトをスタートさせる。

利根川工場では、1日当たり5〜8tの処理能力を持つ乾燥機を2基導入、年内には、さらに2基の追加導入を予定している。緑茶・麦茶などの茶殻やコーヒー豆かすを乾燥・ペレット化し、プラスチック代替素材や家畜飼料、バイオマス用燃料などの用途で販売する予定で、具体的な用途や販路はグレンカル・シナリーが提案する。

レドックスマスターは、極低エネルギー

ギーのプラズマで複数種のイオン・活性酸素種を発生させ、20〜60℃の低温で、食品残さなどを短時間で滅菌乾燥するのも。原料の炭化や酸化を防止して栄養素を損なわずに含水率20%以下にし、ランニングコストを従来技術の1/2〜1/20に抑えられるという。すでにこの技術を活用して乾燥した食品残さの成形品が、大手コーヒーチェーンの店舗トレイや、ホームセンターで販売されるプランター

に使用されている例もある。グレンカル・シナリーは、プラスチック用原材料の製造・販売を目的に設立されたジョイントベンチャーで、原料供給からリサイクル製品の製造・販売までを株主だけで完結させる体制を整えている。日本キャンパックは主要株主の1社

で、他にJAアオレン、鉄建建設(株)、農林中央金庫や、ペレットなど物流機器のレンタルを手掛けるユーピーアール(株)らが、株主として名を連ねている。今回レドックスマスターを導入した日

DATA

本社所在地 青森県弘前市
設立 2020年
代表 中石雅仁



日本キャンパック利根川工場
運転を開始した
2基のレドク
スマスター



運転開始式の様子

本キャンパックの池田孝資社長は、竣工式のあいさつで「産業廃棄物として処理をしていた食品残さの一部を、バイオマス新素材や家畜用飼料に全て再資源化できる道筋がついた。循環型社会の形成に大きく寄与してくれると確信している」と力を込めた。

グレンカル・シナリーでは、今回のプロジェクトを皮切りに、食品関連企業などに対して、従来は廃棄していた植物性の残さをアップサイクルするシステムを提案していく意向で、レドックスマスターで乾燥した製品を使った新素材の開発と製造・販売を同時並行で進めていく。

W (本誌・新倉)